福島県立医科大学　ダイバーシティ推進室

FMU にじいろ通信

第２号　２０２２年９月発行

本紙の新名称について多くの御応募頂きましてありがとうございました。審査の結果、「にじいろ通信」に決定いたしました。御提案下さった方からは「ダイバーシティとは、さまざまなカラーの人が集まったものだから」との説明がありました。にじいろはダイバーシティ(多様性)を連想させることからダイバーシティ推進の広報紙に相応しい名称となりました。今後とも皆様に御愛読いただければ幸いです。

推進員研修会を開催し、LGBT・SOGI について学ぶ

7月20日(水)にダイバーシティ推進員研修会が会場及びWeb参加方式により開催されました。講師にはLGBT法連合会事務局長の神谷悠一氏をお招きし、「性的指向・性自認（SOGI）と、大学・職場の課題について」と題して講演していただき、130名が受講されました。

講演では、LGBTの定義や性的指向(SO)と性自認(GI)との関係について、具体的な事例を挙げて説明していただきました。

ハラスメントに関しては、2020年の文部科学省局長通知では、ハラスメント防止措置が「法的義務」であって「努力義務」ではないということ、また、事業主の責務として自ら雇用する労働者以外の者（受験生、学生、求職者等）に対しても同様の方針を示すことが望ましいとされていること、ここでハラスメントの「相手」とされているのはLGBTに限らない、誰であってもハラスメントになるということなどを説明していただきました。

会場へも多数の推進員が参加

神谷悠一LGBT法連合会事務局長

研修会に参加された方々からは「LGBTとSOGIの違いなど、分かり易い解説でありがたかった。身近な課題として気にかけていこうと思います。」、「法整備、人々の意識が追いついていないと思われ、意識改革を常にしていかなければいけないと再認識しました。」、「LGBT、SOGIは周囲にはいないと思っていたが、潜在していることを改めて意識しておいた方が良いと思いました。」などの声が聞かれました。

学内では、4月に「性の多様性(LGBT等)に関する理念と対応ガイドライン」が制定されました。一人ひとりがこのガイドラインを理解し、学生の皆さんが安心して学べる場を提供できるよう、本学の対応に生かしていくことが求められています。

10月は『男女共同参画推進月間』

本学では、毎年１０月を 「男女共同参画推進月間」として、男女共同参画推進の意識浸透を図る取組 を行ってまいりました。本年度からは、ダイバーシティ推進室への改組にともない、さらにダイバーシティ推進を発展させることに努めます。

本月間では、職場内でのダイバーシティへの意識改革を促進するため、推進員である各所属長主催による職場内研修会を開催していただく予定です。今年度改訂された「ダイバーシティ推進マニュアル」の読み合わせなどを通じて、所属単位でダイバーシティ推進についての意識浸透を図っていただきたいと思います。また、１１月には外部講師によるダイバーシティ推進講演会を開催予定です。是非御参加ください。

◇　研究支援を受けられている先生方からの感想を紹介　◇

当推進室では、ライフイベント(妊娠・出産・育児・介護等)を抱えた教員の研究支援を行っております。今回は、研究支援を受けられている先生方にお話を伺いました。

帰宅時間を早めて家族サービス可能に

耳鼻咽喉科学講座　准教授　今泉　光雅先生

2019年後期より、研究支援制度（週1回午前4時間）を活用しております。主に研データの入力、アンケート結果のまとめ、発表用のグラフ作成等を依頼しております。

私の平日の帰宅時間は夜の10時前になってしまうことが多いのですが、その時間ですと子供達は寝てしまっています。妻は輸血部で助教として勤務しており、共働き家庭であることもあり、様々な点で家族への負担が多い状態です。週1回4時間の研究支援を活用させていただいた結果、週1回4時間早く帰ることができるようになりました。週1日は、子供達の学童のお迎えにいき、夕食を共に食べ、お風呂に入り、寝かしつける等、父親らしいことが少しはできているように思います。大学病院に勤務する医師として、9－17時生活を望むべくもありませんが、研究支援制度のおかげで、多少人間らしい生活ができております。支援に心から感謝いたします。

子供と過ごす時間を確保でき満足

疫学講座　講師　江口　依里先生

福島県立医科大学、ダイバーシティ推進室が実施している研究支援制度を2年半継続して利用させていただいております。1歳、4歳の子供がおりますが、土日は夫が不在であることが多く、祖父母は遠方であるため、平日、子供が保育園に通っている時間が貴重な作業時間となります。限られた時間を有効に使い、土日や19：00以降は子供たちと一緒の時間を楽しむために、データ入力等様々な作業を支援員の方に支援していただいており、その時間を他の作業時間に回せるため、大変助かっております。

育児、介護等、様々なライフイベントを抱えながらも仕事にも充実感を持って力を発揮できるよう、今後もこのような支援が継続され、この制度に限らず、様々な支援が医大内でも、社会でも広がることを期待しています。これまでのご支援に感謝しますと共に、今後ともよろしくお願いいたします。

お　知　ら　せ

<<FMUキャリアサポート交流会>>

■日 時　令和4年9月30日（金）16:40～18:00
■場 所　災害医学・医療産業棟7階　会議室2
　　(会場とWebによるライブ配信)
■講 師　1.保健科学部　理学療法学科
　　講師　遠藤　康裕先生
　　2.保健科学部　作業療法学科
　　講師　浅尾　章彦先生
　　3.広島大学医学部付属　医学教育センター
　　教授　蓮沼　直子先生

詳細はデスクネッツ掲載の案内を御覧ください。

用語解説

『ダイバーシティ＆インクルージョン』

ダイバーシティとは「性別や年齢、人種、民族など多様な人材を受け入れ、個人を尊重する考え方」をさしています。インクルージョンとは「ダイバーシティの考え方を前提に、組織が一体となって個々を活かして働いていこうという考え方」です。ダイバーシティ＆インクルージョン（D & I）は多様性を受容するだけでなく、個性を活用して組織を発展させようという考え方なのです。

福島県立医科大学では、個人として尊重され、性別・立場に関わらず、多様な価値観を認め合い、持てる個性と能力を最大限発揮できる環境を築き、かつ、仕事と生活の調和を実現することを目指しております。

福島県立医科大学　ダイバーシティ推進室

E-mail：gendeqsp@fmu.ac.jp　/　Tel：024-547-1657（内線：2807）/ HP：http://www.fmu.ac.jp/home/gendeqsp/

ダイバーシティ推進室長　小宮　ひろみ/コーディネーター　橋本にしき/渡邊　賢一